

甲状腺外科草子 32 承前

我ら生涯最良の師：フリン神父

杉野 圭三

師が六甲学院に赴任されたのは 1954 年、17 期生を担当、その後 23 期、我々が 29 期、35 期、41 期を担当された。師は 1 年生の最初の授業までに生徒全員（180 名）の名前と顔を覚え、周到な準備をして臨んでいた。



中学 1 年 B 組 (29 期生、1966 年 4 月、筆者はどこ?)

生徒との交流を深めるために、入学間もない中学 1 年生の春からハイキングがしばしば計画された。学校のすぐ裏は六甲山のきれいな谷川や新緑にあふれた絶好のポイントであり、飯盒炊爨の仕方を教わった。特に師が作る焼きリンゴは絶品で、良く同窓会の話題となったものである。



ハイキング集合 (1966 年?)

学校の課外活動として中学 1, 2 年時には淡路島の江井や日本海側の久美浜での「海の合宿」があり、「かなづち」の生徒も最後には 1 Km の遠泳コースを達成できた。

また中学 3 年には立山合宿があり、学校が所有する追分小屋で自炊、立山山頂への登山などがあり、それらの時に同行された神父は面倒見の良く優しさにあふれるものであった。

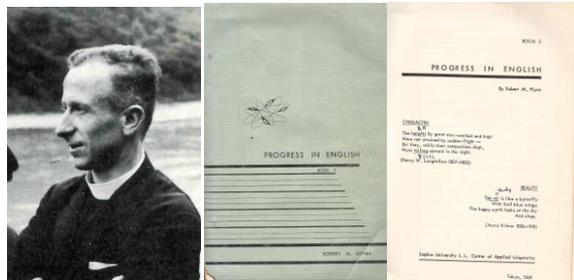


立山合宿 (1968 年?)

しかし、クラブ活動のバスケットボール部での指導は厳しいものであった。我々同期は 40 名近くが入部し (全学年の 2 割近く! 最終的には約半数に減少)、神戸市の B リーグで優勝するまでに成長した。師の指導は球の確実なホールド、正確なパス、敵陣へのカットイン、リバウンド、攻撃・防御の迅速さなどの基本の習熟であった。

特にファイトあふれる精神を重視され、熱があるくらいで欠場するのは許されず、『ファイトを出さなければダメです! Always do my best だよ!』とされていたものである。

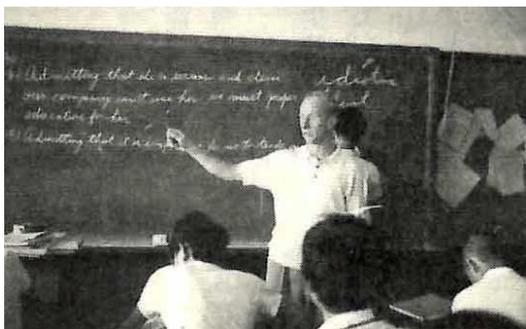
師は来日されてから英語の授業の改善に取り組まれ、ミシガン大学で開発された新しい英語授業の「オーラル アプローチ」による教科書「Progress in English:1-6」の制作を始められた。我々が入学した頃もこの作業は継続中であり、卒業時に完成した。



筆者所有の Progress in English 5 と 1 ページ目

師の教えは「血となり肉となるまで覚えなさい!」という、繰り返しの勉強であった。

Progress in English 1 のイソップ物語「キツネとぶどう」冒頭の「One day, a Fox came into the farmer's garden～」は 50 年以上を経ても、未だに頭にこびりついて離れない。



厳しい授業風景（血となり肉となるまで!）



不肖の弟子の答案（これ以上は無理!、血となり肉となれず）

師の肉声テープ（同期会で配布）には以下の言葉が残されている。

“ Let’s speak English, let’s read English, let’s write English ,~, study hard every day ~ to help you make Progress in English, God bless you! ”

授業以外でも、中学3年からは姉妹校の広島学院や系列校の洛星学院と合同で泊まり込みの「英語合宿」があり、京都や広島で数日間、英語以外は会話禁止の生活が続いた。



英語合宿、於広島、(1968年、8/16-8/20)



津和野教会での活躍



その後、師は 1983 年泰星学園に転任、更に 1988 年には津和野教会へ転任された。

津和野では教会神父としての勤め以外に、幼稚園、小学生、中学生にも英語を教えることを続けられていた。

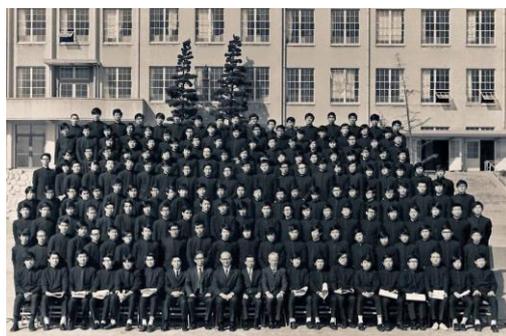


傘寿記念祝賀会(神戸オリエンタル H、2000年 12/29)

2000 年に 29 期生が傘寿記念祝賀会を行ったが、師の体調は万全で昔と変わらず全員の名前も悪行もよく覚えておられた。

2002 年からは驚いたことに、萩光塩学院での英語授業も担当されるようになった。

弘法大師は『祈りなき行動は妄動であり、行動なき祈りは妄想である』との言葉が残されたが、フリン神父も同様に祈りだけではなく、無限に思える行動力で多くの人々を引き付け導かれ、宗教の壁を越える大いなる存在となった。



六甲学院 29 期生卒業 (1982 年 3 月)

2009 年 2 月 7 日帰天されたが、師は未だに教え子達の心の中で生き続けている。

“Always do my best !”

参考文献

ロバート・フリンーあるカトリック神父の足跡一、2002.

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2022 年 6 月 1 日